



パイロットパッケージへの ECPD ID とアカウント番号の追加

- [機能の概要と変更履歴 \(1 ページ\)](#)
- [機能説明 \(2 ページ\)](#)
- [パイロットパッケージの設定 \(3 ページ\)](#)

機能の概要と変更履歴

要約データ

該当製品または機能エリア	• GGSN • P-GW
該当プラットフォーム	• ASR 5500 • VPC-DI • VPC-SI
機能のデフォルト	無効：設定が必要
このリリースでの関連する変更点	N/A
関連資料	• <i>Command Line Interface Reference</i> • <i>P-GW Administration Guide</i> • <i>GGSN Administration Guide</i>

マニュアルの変更履歴

改訂の詳細	リリース
最初の導入。	21.25

機能説明

パイロットパケット機能は、サブスクリイバの ID やサブスクリイバの IP アドレスといったサブスクリイバセッションに関する重要な情報を外部の要素に提供します。イベントトリガー中にサブスクリイバが IP アドレスの割り当てまたは割り当て解除を行うと、「パイロット」パケットが生成されます。この情報を使用して、サブスクリイバ分析などの新しいサービスが有効になり、UDP トランスポートで送信されます。

パイロットパケットは次の情報で構成され、タイプ、長さ、値 (TLV) の形式になっています。

- 割り当て/割り当て解除フラグ
- MSISDN (MDN)
- IMSI
- 割り当て済み IPv4 アドレス
- 割り当て済み IPv6 アドレス
- 割り当て済み NAT IPv4 アドレス
- NAT アドレスポートチャンクの開始
- NAT アドレスポートチャンクのサイズ
- サービス提供ネットワーク識別子
- 外部エージェントの IP アドレス
- NAI
- RAT タイプ

通信事業者は、パイロットパケットを持つネットワーク要素が SGi インターフェ이스の Flexible-Services-Container TLV を介してエンタープライズレベルの情報を取得およびレポートできるようにします。

Flexible-Services-Container は、次のエンタープライズレベルの情報で構成されます。

- エンタープライズ カスタマー プロファイル データベース ID (ECPD ID)
- アカウント番号

例 : ECPD ID = 3458312、アカウント番号 = 0442058164-00001

注

特記事項は次のとおりです。

- 新しい TLV が CLI で設定され、S6b が AAA メッセージで受信した場合にのみ、P-GW はサブスクリイバのパイロットパケットに新しい TLV を追加します。

- P-GW は再認証手順で受信した Flexible-Services-Container を無視します。
- P-GW や GGSN のサービスでは、エンタープライズ情報（ECPD ID とアカウント番号）の内容や解釈は必要ありません。データは P-GW や GGSN によって解析されず、パイロットパケットで透過的に渡されます。

パイロットパケットの設定

サードパーティのネットワーク要素へのサブスクライバセッションに関するキー情報を含むパイロットパケットを設定するには、次の設定を使用します。

```
configure
  context context_name
    pilot-packet { attribute { foreign-agent-ip-address | nai | rat-type
    | serving-nw-id | flexible-services-container } | name server_name
source-ip-address source_ip_address destination-ip-address destination-ip_address
destination-udp-port udp_port_value [ dscp-marking dscp-value ] | trigger
rat-change generate { nat-info-only | user-info-and-nat-info |
user-info-only } }
    default pilot-packet { attribute { foreign-agent-ip-address | nai
    | rat-type | serving-nw-id | flexible-services-container } | trigger
rat-change }
    no pilot-packet { attribute { foreign-agent-ip-address | nai |
rat-type | serving-nw-id | flexible-services-container } | name server_name
    | trigger rat-change }
  end
```

注：

- **pilot-packet { attribute flexible-services-container}**：パイロットパケットでオプションの flexible-services-container を送信します。
- **default pilot-packet { attribute flexible-services-container }**：パイロットパケットでオプションの flexible-services-container を送信しません。
- **no pilot-packet { attribute flexible-services-container }**：パイロットパケットでフレキシブルサービスコンテナ情報を無効にします。

設定の確認

パイロットパケットの設定を検証するには、次のコマンドを使用します。

- **show configuration**
- **show configuration verbose**

show configuration

このコマンドの出力には、次のフィールドが含まれています。

表 1 : *show config* コマンド出力の説明

フィールド	説明
flexible-services-container	オプションの TLV フレキシブル サービス コンテナがパイロットパケットで送信されることを示します。

show config verbose コマンドにも同様の フィールド出力が含まれています。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。